



渡部央也さんは滋賀県出身、元々家具が好きで、大学で工業デザインを学んだ後、沖縄でのウーフ（有機農業体験事業）に参加した際、自分の手で物をつくる事に目覚めます。その後、家具づくりなど様々な技術を学んだのち、2016年に『西会津町地域おこし協力隊』に着任。翌年には町の若手農業者の代表的存在である渡部佳菜子さんと入籍し、第一子も産まれ、今ではすっかり西会津町の一員です。

「この町を選んだ理由は『西会津国際芸術村』でした。自然の循環の中で生きながら、廃家具のアップサイクルなどを生業にしていきたいと考え、色々な地域で自分の目指すことを成す為のフィールドを探すなかで、廃校利用をしている芸術村には特に心惹かれました。協力隊任期中に携わる理想の仕事内容としては、廃材・廃家具・伐採の3点。今後は材料作りとしての植林にも携わっていきたいですね」

協力隊の3年間では、大山祇神社をはじめとするあちこちへ、様々な形の木製ベンチを点在させ

るなど、その仕事は町へも溶け込んでいます。

奥様・佳菜子さんは、微生物のバランスが整えられた土で育つミネラル野菜の生産を手がける、めごい菜農園のオーナー。彼女の作るおいしく、めごい（かわいい）野菜達の人気は、お客様とのコミュニケーションから生まれる信頼の賜物。専業農家に生まれ、幼い頃から農作業する両親の姿を見て育った彼女は、農業のイメージ、未来を「明るく楽しい」ものに変えていきたいと、クラウドファンディングや、都会と地方を結ぶコミュニティ・サポーター・アグリカルチャーで、「地域に支えられた農業」を目指し奮闘しています。循環の中で、植林と同じ目線で、奥様のご実家の農家の手伝いをする央也さんと佳菜子さんは今、野菜と木製食器、農業体験とセットの民泊を視野に入れて、お互いをサポートし合える未来を見据えています。

「西会津に腰を落着けたことによって、思っていた以上に、想い描くものへ近づくスピードが速くなったように感じます」



西会津のある暮らし

File no.7



自然の循環の中で生きながら、
廃家具のアップサイクルなどを生業に

渡部佳菜子
Kanakan Watanabe

西会津町生まれ。めごい菜農園代表。専業農家に生まれ、幼い頃より両親が農業を営む姿勢を見て憧れを持ち、小学生の頃から農家になることを夢見ていた。地元の高校、農業短大を経て就農。野菜・米の栽培を行っている。

渡部央也
Hisaya Watanabe

滋賀県生まれ。京都・沖縄・美濃加茂・碧南など、様々な地で家具や木工づくりを学びながら働き、2016年に地域おこし協力隊として西会津町に赴任。アート・木工分野で活躍する。2017年に結婚。旧姓は間瀬。